



信州大学機関リポジトリ 事例紹介



2018年度第3回機関リポジトリ新任担当者研修
信州大学教育学部図書館
山口 美咲

JPCOAR オープンアクセスリポジトリ推進協会
研修作業部会

信州大学の概要

- 長野県唯一の国立大学
- キャンパスが5箇所に分かれている、いわゆる「タコ足大学」

- 8学部（学生：9,127人）

人文学部、教育学部、経法学部、理学部、医学部、工学部、農学部、繊維学部

- 6研究科（学生：1,903人）

- 教員：1,156人

- 事務職員等：1,384人



信州大学図書館の概要

- 各キャンパスごとに計6館

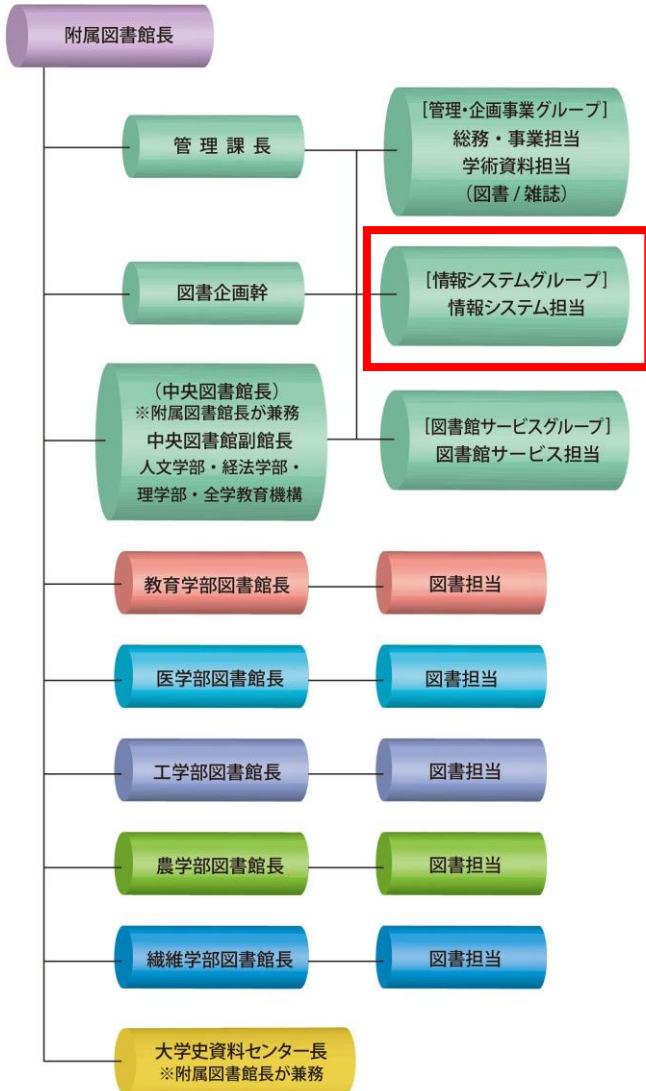
- 中央図書館の奉仕対象
全学部の1年生、人文・経済・理学部の2-4年生・院生
松本キャンパスの医学部以外の教職員

- 各学部図書館の奉仕対象
各学部の2-4年生・院生、教職員

- 職員数 中央図書館:約30名 学部図書館:約5名ずつ



情報システム担当について



- 中央図書館での勤務
常勤:2名 非常勤:1名

- 研究者総覧の運営・機関リポジトリの運営のほかに、図書館の業務システムの管理、館内PCの管理、図書館HPの管理なども行っています

- 離れたキャンパスの教員との連絡は、各学部図書館で請け負うことも

本学機関リポジトリの概要

- 信州大学学術情報オンラインシステム **SOAR** (ソアー)
(Shinshu University Online System of General Academic Resources)
<http://www.shinshu-u.ac.jp/soar/>
- 機関リポジトリと研究者総覧の連携型
2015年11月にDspaceからJAIRO-Cloudへ移行
- コンテンツ数 17,640件
ダウンロード数 1,191,126件 (2017年度)

未来創造のきっかけは ここにある。

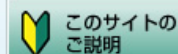
信州大学の全ての研究者の情報と、
研究成果をご確認いただけます。



お知らせ

一覧を見る

- ▶ 2018.09.20 [【情報提供】researchmap:「科...](#)
- ▶ 2018.09.18 [【復旧しました】研究者総覧更新の停止のお...](#)
- ▶ 2018.09.06 [科研費研究成果報告書の機関リポジトリ公開](#)



このサイトの
ご説明

お問い合わせ先

信州大学附属図書館 SOAR担当

▶ library-soar@shinshu-u.ac.jp

研究者総覧 — 研究者情報を調べる —

🔍 研究者、研究内容などで検索 (全ての項目を対象)

検索

▶ [項目別検索はこちら](#)

● 学術研究院から選ぶ

人文社会科学域

人文科学系

教育学系

社会科学系

総合人間科学系

理工学域

理学系

工学系

農学系

繊維学系

機関リポジトリ — 研究成果を調べる —

🔍 検索語を入力して、検索ボタンをクリックしてください。

検索

● 学部・研究科一覧

- ▶ [人文学部, 大学院人文学研究科](#)
- ▶ [教育学部, 大学院教育学研究科](#)
- ▶ [経済学部, 大学院経済・社会政策科学研究科](#)
- ▶ [大学院法曹法務研究科](#)
- ▶ [理学部](#)
- ▶ [医学部, 大学院医学系研究科](#)
- ▶ [医学部附属病院](#)
- ▶ [工学部](#)
- ▶ [農学部, 大学院農学研究科](#)

その他のリポジトリ

- 信州共同リポジトリ <https://shinshu.repo.nii.ac.jp/>
 - 長野県内の高等教育機関を対象とした地域共同リポジトリ
 - 2014年一般公開開始
 - システム: JAIRO Cloud
 - 長野県内15の大学・短大・高専のうち、14機関が参加
- 遺跡資料リポジトリ(長野県・山梨県・新潟県)
<https://sitereports.nabunken.go.jp/ja>
 - 全国遺跡資料リポジトリプロジェクト(島根大学が事務局)に2010年度から参加
 - 各県域の埋蔵文化財発掘調査報告書を電子化・公開するプロジェクト

リポジトリ担当の日常業務

- 学外刊行物掲載論文について、教員へ登録の打診をする

1. 科研費成果報告書を情報源として利用する場合

- ① 学内担当部局に科研費成果報告書の提供を依頼
- ② 報告書内の科研費成果論文のうち、信大所属研究者が著書に含まれている論文の著作権を調査
- ③ 調査結果に基づき、研究代表者に成果論文のリポジトリ登録許諾を打診
- ④ 研究代表者よりリポジトリ登録の依頼があった成果論文について、図書館担当者がメタデータ作成・リポジトリ登録し、登録完了を連絡

2. 「Web of Science」を情報源として利用する場合

- ① 「Web of Science」より本学所属の著者の論文を検索（著者所属で検索）し、ヒットした論文の著作権を調査
- ② 著作権調査結果に基づき、著者に論文のリポジトリ登録許諾を打診

リポジトリ担当の日常業務

- 著者への打診のタイミング

メールで許諾申請できる場合：出版社や学会の許諾を得てから著者に打診
郵送による申請が必要な場合：著者に打診後、出版社や学会の許諾を得る

- 著者から登録を断られた事例

返信があって断られるケースは少なく、そもそも打診に対して半数以上はメールの返信がない。登録の依頼は、打診に対して3～4割あれば上々だと感じている。

【理由】

- a. 著者最終原稿を公開したくない（不完全な形（著者最終原稿）は公開したくない・PubMedでも著者最終原稿はすでに公開されている（医学系））
- b. 原稿が用意できない（著者最終原稿が手元がない・多忙で原稿が用意できない・昔の原稿は残っていない）
- c. 著者のポリシー（研究者間では、著者に直接コンタクトをとって送ってもらうのが一般的、など）

認知度向上のための取組み

- 新任教職員研修で、機関リポジトリの説明に加え、コンテンツを登録するための手続きに関する説明も行っている
- 科研費成果報告書および科研費成果論文のリポジトリ登録

科研費実績報告書にオープンアクセス欄が追加されたのを機に、論文のオープンアクセスに関するポスターを作成し、学内担当部局を通じて学内に広報している。このコンテンツの登録は、認知度向上のみを目的として開始したわけではないものの、多数の教員が科研を申請し採択されているため、教員の認知度向上に対して大きな効果を生んでいると感じている。

- 研究者総覧との相互リンク
- 共同リポジトリへのデータ提供
- 利用促進に向けて機関リポジトリに登録した紀要をERDB-JPへ登録する準備を進めている

ありがとうございました

- 利用者担当からすると、機関リポジトリの存在に日々とても助けられています
- 構築する側と利用する側が近くにいるので、意見の交換や利用促進への協力がもっとできるようになればと感じています